

今も心に残っています。
そのため、



看取り士
柴田久美子さん

ます。介護の大変さ
きましたが、介護さ
ろうと思います。今
りがたい心になれ
かと悩んでいました
そんな時、終活店
田久美子先生の講演
きました。早速、彼
みましたが、なかなか
ただけませんでした
のある後楽園は、ハ
満開とニュースで
聞いたので、帰り
に見る約束をして
参加することにな
りました。



地面につく位に大きく咲いている藤、これだけ多くの藤棚はなかなか見られません。主人とゆっくり歩きながら、花を楽しんでいますと、あちらこちらから、中国語、韓国語やわからない国の言葉が飛び込んできました。日本において外国に来ているようでした。私達日本人は、日本人らしくマナーを正しく守り、恥ずかしくない日本人でありたいと思います。一日、藤の中で、パワーをいただいて帰つてきました。ありがとうございました。

調布市/T・N

先日、看取り士・柴田久美子先生の講演を聞かせていただきました。お話しを聞くまで、看取り士という言葉は、初めて聞く言葉でした。

「看取り士」とは余命告知を受けたから納棺までの世話、プロデュースをする人で、自宅で家族と共に最期の時を迎える手助けをしてくださる方だと知りました。

私は29年前に実の母をガンで見

送りました。69才でした。10ヶ月の闘病生活の中で、余命を告げられていきましたが、死を受け入れる事が出来ず、生きてくれることを願っていました。最後の1ヶ月は病院で痛み止めのモルヒネで意識はもうろうとしており、何を話すこともなく1人寂しく旅立たせてしまったことの後悔は、

● 柴田さん、ご講演を
ありがとうございました

てあげたいと、病院でしたが見送ることが出来ました。

私は現在、93才になる主人の母を介護しております。少し認知がありますが、身体の方は元気で、週3回デイサービスに通っています。いずれは母を見取る日が来るのだと思っています。

今回、自宅で家族と共に看取れることを知り、家族一人ひとりが母への感謝を伝え、お別れしたいと思わせていただきました。貴重なご講演をありがとうございました。

ました。先生のお話に自分を重ね合わせていました。介護する意味がわかり、何をしたらしいのかわかつたと言い、講演後主人が待っているからすぐ帰つて行きました。講演前と講演後の顔が全然違っていました。

「この先どうなるのか毎日が不安だつたけど、講演を聞いて安心したら、心にゆとりができた。」と嬉しそうに話をしてくれるようになり、お友達を誘つて本当によかつたです。彼女の心を楽にしてください、ありがとうございました。

今年もまた、かみさんの実家がある千葉の大多喜から、採れたての筍が送られてきました。肥えでずんぐりとしたところは、かみさんと瓜二つです。

その、かみさんが茶色の皮をむいているのを見ていたら、まだ子供だった終戦直後のことだが、甦つてきました。当時は食糧難で誰もが飢えていました。



● 友達を元気にしていただき
ありがとうございます

●足利の藤にありがとう

渋谷区/E・I

4月の終わりに、足利の藤を家族で楽しんできました。足利フラワー・パークの中に入ると、藤の甘い香りがやさしく迎えてくれました。白い藤棚、藤の花が地面につく位に大きく咲いている藤、二



い梅の味が口いっぱいに広がりました。それを喜んで、何時までも吸っていました。その頃、親たちは食料を確保するため、竹の皮を一枚一枚剥ぎように、身の回りの品々を売つて食いつないでいたそうです。これを、「筍生活」と言うことを後年になつて知りました。

この日の夕食は、かみさんが腕に依りをかけた筍すくしでした。土佐依のをかけた筍すくしでした。土佐

煮や若竹煮をつまみながら、かみさんによく「筍生活」の話をすると、昨今のように物価や医療費、介護保険などが上がり、年金が下がる一方ではわが家はこれから「筍生活」する以外ないので、手始めに酒を止めたらしい。どうだと言いだした。どうやら、これは藪蛇になってしまったようだ。

- ・ かみさんの話では、千葉の弟も体力が衰え筍掘りもそろそろ限界と言つことだつた。
- 義弟よ、美味しい筍がありがとう。

●美味しい筍をありがとうございます

●ホリサキツジに
ありがとう

四十五年前に、となりの植木職人のおじさ
んから、大紫の小さい木を一本いただきまし
た。



庭の真中に植えました
たが、何年たつても花
を咲かせませんでした。
幹は十センチ位に太く
なり、あまり大きくならない様に切り
込んでいましたが、今年咲かなかつた
ら、そろそろ切ろうと思って、大紫の
つつじに言い聞かせました。
すると5月の初めに4本の枝に満開
の花を咲かせてくれました。一生懸命
咲いているように見え、切らなくてよ
かつた思います。

●お返事をください
ありがとうございます



大田区
M・S

母はNHKの気象予報士・平井さんが大好きです。夕方、家族から「平井さん」の時間だよ。と呼ばれると、「平井さん、平井さん」と言いながらテレビの前に座ります。

4月の初め、朝5時20分頃にテレビをつけると、気象予報士の平井さんの顔が写っていたので、驚いて、母に平井さんが朝の担当になつたことを伝えました。母は、「平井さんは朝の方

春先になると私はお姑さんのかやらぶきを思い出します。

丹精込めて作り上げたきやらぶきの煮物は本当に美味しく天下逸品です。私も見よう見まねで作つてみましたが、なかなかおばあちゃんのようにはいきませんでした。少しでも近づこうと努力し、今はみんなに美味しいと言われるきやらぶきになりました。

お姑さんとはいろいろありました。毎年春のフキが出る時期になると懐かしく思い出しては作ります。

おばあちゃんのお陰で美味しい煮物が出来るようになりました。おばあちゃん、ありがとうございます。



がいいね。」と言つていました。
この母の様子を、NHKの「おはよう日本」の平井さん宛にハガキに書いて出してみました。一週間もたたないうちに、平井さんより自筆で「ハガキをご覧いただきありがとうございます。午前0時起床、午前2時にNHKに入り、準備をしてから、午前5時20分頃、5時50分頃、6時50分、放送に入っています。」と、放送に入る時間を見てくださいました。
母の日にプレゼントと一緒に平井さんのハガキを渡しました。母はハガキを大事そうに撫でていました。
返事を下さった平井さんに感謝いたします。

●ややしきありがとう

江東区/T.D

越谷市/Y・K

人とも晴れやかな顔です。この日が絶わらないと落ち着かないと言いながら、朝早く行きました。帰ってくると勲章を見せてくれました。周りにはシルバーの飾りがついていて、中には赤い石が施された、とても美しいものでした。私は弟の両親は、とうに他界しています。母は大正生まれで生きていれば100才、父に至っては生きていれば110才です。その二人が叙勲を知つたらびっくりして腰を抜かしてしまうのではないかと思います。自分たちの子どもが天皇陛下から勲章をもらうなんて本当に晴れがましいことです。

私は父母にかわり、心を込めてお祝いしたいと思います。この様な機会を与えてくださった周囲の皆様に感謝したいです。ありがとうございました。

73才の弟が瑞宝単光章という叙勲を受けました。長年、消防に携わり、そこから推薦を受けたのです。

新聞に名前が発表されると私と弟の共通の知人から「地域で活躍されたので、今回の叙勲の発表は本当に嬉しいです。おめでとうございます。」とお祝いの電話をいただきました。弟はPTAや町会、保護司などいろいろなボランティアに携わっています。まだ仕事も現役でやっています。忙しく休んでいるのかしらと思つほどです。忙しく日々過ごしています。

そんな弟を支えているのは義妹です。この義妹がいなければ、これほど働けないと思います。この夫婦が叙勲を受けに皇居へ行きました。弟はモーニング、義妹は永い間大事にしまつていた

●弟に叙勲をありがとう

【原稿をお待ちしています。】



【携帯 De ショット】

背丈が30cmほどあるカワラナデシコ。地を這うように咲くナデシコとは違い、風にゆらゆら揺れるので、また趣が違って楽しめる花です。

【花言葉】 大胆、貞節、可憐

- 携帯電話の方はQRコードから →→→
 - パソコンの方は下記のURLから ↓
<http://1039.seesaa.net/>
 - メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部